

鹿児島県薩摩硫黄島沖から採集されたトサパイプヨウラク (軟体動物門, 腹足綱, アッキガイ科) の記録

倉持卓司¹⁾・倉持敦子²⁾・厚井晶子³⁾・長沼 毅^{3)*}

¹⁾ 葉山しおさい博物館, 〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2123-1

²⁾ 〒240-0104 神奈川県横須賀市芦名2-6-3-504

³⁾ 広島大学大学院生物圏科学研究科, 〒739-8528 広島県東広島市鏡山1-4-4

要 旨 高知県土佐湾を模式産地として記載されたし 寛 商 達(三) é ん 十 こ 猪 玳 峻 肴 俊 薑 雲 告 輿 延 鎔

Azuma (1960) により, 土佐湾より得られた殻長30+ mm の個体をもとに, Azuma, 1960の学名で新種として記載された。Habe (1961) は, 本種を模式種として 亜属を新設し, (Azuma, 1960) の学名を用いた。この学名が, Higo (1999), 土屋 (2000) で用いられている。Houart (2002) は, パイプヨウラク亜科の各属の再検討を行い, (Azuma, 1960) を模式種として属の再定義をおこない, を属に昇格させ, (Azuma, 1960) の学名を本種に用いている。この学名は, 小山 (1997), Houart (2002) で用いられている。本報告では Houart (2002) に準じ, トサパイプヨウラクに対して (Azuma, 1960) の学名を用いる。これまでトサパイプヨウラクは, 模式産地である土佐湾のほか, 和歌山県田辺沖, 潮岬沖から記録され (Azuma, 1960; 小山, 1997) 筆者らは, これまでに記録のない鹿児島県薩摩硫黄島沖より本種を採集したので, 新たな分布として報告する。

試 料

アッキガイ科 Muricidae

パイプヨウラク亜科 Typhinae

トサパイプヨウラク属 Monstrotyphis Habe, 1961

トサパイプヨウラク (Azuma, 1960)

Azuma, 1960: pl. 2. fg. 8.

: Habe, 1961: app. 19; Higo, Callomon & Goto, 1999. 205; Tsuchiya, 2000: 379.

pl. 188. fg. 80.

: Koyama, 1997: p. 48. pl.2. fg. 16; Houart, 2002. fg. 23.

* E-mail: takn@hiroshima-u.ac.jp

産地 鹿児島県鹿児島郡三島村薩摩硫黄島沖 水深239-240 m (2014年3月18日 ドレッジで採集)

記 載

殻長21.5mm, 殻幅8.6mm。殻は薄茶色を帯びた白色。螺層は強くくびれ, 4本の縮れた縦張肋があり, その周縁に4本の角状の棘がある (Fig.1.)。いずれも先端は後方へ曲がるが, 体層にある棘は斜め上方を向き, 水管に接する棘は斜め下方へ向かって伸張する。縦張肋の間に管状の突起があり, 先端は丸い穴が開く。体層部の突起は斜め後方へ著しく突出し, 殻高の2/3に達する。殻口は丸く, やや突出する。水管溝は伸びた軸唇と外唇に覆われ管状になる。水管のほぼ中央に, 上向きにカーブした1本の棘が発達する。

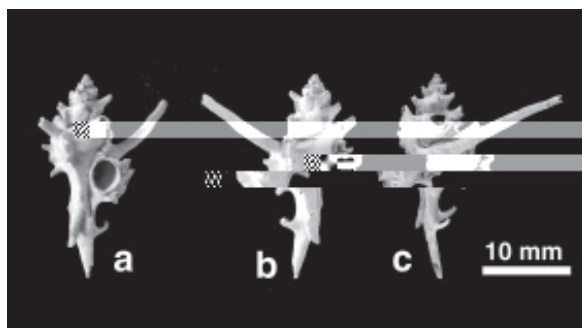


Fig. 1. (Azuma, 1960) collected from off-Satsuma I jima Island; (a) ventral, (b) dorsal, and (c) side views.

比 較

トサパイブヨウラク属 () には, これまでに11種類 (パイブヨウラク (A. Adams, 1863), トサパイブヨウラク (Azuma, 1960), ミカドパイブヨウラク (Keen and Campbell, 1964), テラマチパイブヨウラク (Keen and Campbell, 1964), (Verco, 1909), (Houart, 1987), (Espinosa, 1985), (Mestayer, 1916), Houart, 2002, Houart and Marshall, 2012, *M. yatesi* (Crosse and P. Fischer, 1865) が記録されている (Houart and Marshall, 2012)。このうち日本周辺海域からは, パイブヨウラク, トサパイブヨウラク, テラマチパイブヨウラク, ミカドパイブヨウラクの4種が記録されている (小山, 1997; Higo et al., 1999; 土屋, 2000) が, 各種の扱いは研究者によって異なる。

パイブヨウラクは, 五島列島沖の水深88m を模式産地として記載された種類である。殻長1~1.5cm で褐色の殻をもち, 螺層に4本の縮れた縦張肋があり, 円筒形の殻口が突出するが, 水管上に反った棘を持たないことで, トサパイブヨウラクとは区別される。

テラマチパイブヨウラクは, 紀伊半島沖の水深100m を模式産地として記載された種類である。模式標本は殻長20.7mm の個体で, 螺層に8本の小さい鋸歯状の突起を持ち, 水管上に反った棘を持たないことで, パイブヨウラクおよびトサパイブヨウラクとは区別される。土屋 (2000) や Higo et al. (1999) は, (Keen and Campbell, 1964) をパイブヨウラクのシノニムとしている。

ミカドパイブヨウラクは, 土佐湾沖の水深200m を模式産地として記載された種類である。トサパイブヨウラクやテラマチパイブヨウラクに比べ, 殻長に対して殻幅の比率が大きく, 縦張肋の下部が強くくびれることで区別される。小山 (1997) および Higo et al. (1999) は, (Keen and Campbell, 1964) をトサパイブヨウラクのシノニムとしている。

分 布

トサパイプヨウラクは、土佐湾、和歌山県田辺沖、潮岬沖から記録されている (Azuma, 1960; 小山, 1997)。また、Houart (2002) は、シナ海から採集されたとする標本を図示しているが、詳細な産地は記述されていない。

謝 辞

試料採集にあたりご協力いただいた広島大学生物生産学部付属練習船豊潮丸の船長中口和光氏をはじめ船員各位、九州大学大学院農学研究院唐津水産研究センターの長野直樹氏に感謝申し上げます。

引用文献

- Azuma M., 1960. A catalogue of the shell-bearing Mollusca of Okinoshima, Kashiwajima and the adjacent area (Tosa Province) Shikoku, Japan. Published by the author, Tokyo: ii + 102 + 17 pp., 5 pls.
- Keen, A. M., Campbell, G. B., 1964. Ten new species of Typhinae (Gastropoda: Muricidae). *Journal of the Malacological Society of London*, 34: 46-57.
- 小山安生 . 1997 . 和歌山県のホネガイ科貝類 (ホネガイ亜科・モロハボラ亜科・ヒシヨウラクガイ亜科・ツノオリレガイ亜科・パイプヨウラクガイ亜科・ヨウラクガイ亜科・). *南紀生物* . 10: 43-50.
- 土屋光太郎 . 2000 . アッキガイ科 . in 奥谷喬司 (編著) 日本近海産貝類図鑑 東海大学出版会, 藤沢 : 364-421, pl.181-209.
- Higo, S., Callomon, P., Goto, Y., 1999. Catalogue and bibliography of the marine shell-bearing Mollusca of Japan. Elle scientific publications, Osaka : 749
- Houart, R., 2002. Description of a new typhine (Gastropoda: Muricidae) from New Caledonia with comments on some generic classifications within the subfamily. *Venus*, 62: 147-159.
- Houart R., Marshall, B. A., 2012. The Recent Typhinae (Gastropoda: Muricidae) of New Zealand. *Journal of the Malacological Society of London*, 82: 137-144.

*Monstrotyphis tosaensis***off-Satsuma Iōjima Island, northern Satsunan Islands, Japan**

Takashi K¹⁾, Atsuko K²⁾, Akiko K³⁾,
and Takeshi N³⁾

1)

2)

3)

The type locality of the family Muricidae (Azuma, 1960) is listed as Tosa Bay, Kochi Prefecture, Japan. Specimens of the species have also been collected from off-Tanabe and off-Shionomisaki, both of Wakayama Prefecture, Japan (Azuma, 1960; Koyama, 1997). We hereby report that additional specimens of the species were newly collected from off-Satsuma Iōjima Island, Kagoshima Prefecture, Japan, at the depths of 239-240 m. This finding records the southernmost occurrence of the species.

: (Azuma, 1960), Satsuma Iōjima Island, Kagoshima Prefecture